

令和 2 年 5 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13286

研究課題名（和文）仏教石窟壁画と題記銘文の比較検討によるウイグル仏教のトレンドの分析

研究課題名（英文）Research on the Religious Trends of Uigur Buddhism as Seen in the Buddhist Murals and Wall Inscriptions

研究代表者

松井 太（MATSUI, Dai）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10333709

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：中国甘粛省の敦煌石窟を中心に、中央アジア東部地域の仏教石窟遺跡に遺存する壁画の美術史的検討と、石窟に残された古ウイグル語題記銘文の文献学的解読に基づいて、主に西暦7～10世紀頃の仏教壁画に表現される種々の仏教的思想が、後世（10～14世紀）のトルコ系ウイグル族により如何に受容され「トレンド」化したか、という問題の解明を試みた。

研究期間中、敦煌石窟の古ウイグル語題記銘文の資料集を刊行し、これに基づきウイグル仏教徒の活動の実態を分析し、一定の成果を得た。ただし、現地調査上の制限から、ウイグル仏教に特徴的な「トレンド」の解明については十分に実証するためのデータを収集できず、今後の検討課題とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

仏教学・美術史学の観点に立つ中央アジア仏教石窟壁画の分析と、古ウイグル語題記銘文資料の言語学・文献学的解読の成果を、仏教信仰の継受・変容という視点から直接に架橋することを試みたものである。これらの研究分野は中国の「一帯一路」政策の影響で国際学界でも関心が高まっており、今後も現地調査を継続することで、新規性かつ独創性のある歴史研究の方法論を日本の学界から提示することにつながる。

研究成果の概要（英文）：The target of this research project was integration of the art-historical analysis on the mural paintings in the Dunhuang Caves (Gansu Province, China) and other Buddhist cave sanctuaries in the eastern part of Central Asia and the philological decipherment of the Old Uighur inscriptions left in those caves.

Through the project we provided the edition of the Old Uighur pilgrim inscription to prove the religious practices of the Uigur Buddhists. However, we had to postpone the final conclusion on the "trends" of the Uigur pilgrims, because we could not exhaustively assemble information on them under many restriction on our fieldwork at the Dunhuang Caves, to be further investigated in future.

研究分野：アジア・アフリカ史

キーワード：中央アジア 敦煌 ウイグル 仏教 石窟 壁画 題記銘文

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 西暦 4～11 世紀頃の中央アジア東部地域には、壁画や塑像によって荘厳される多数の仏教石窟寺院が造営された。特に中国甘粛省敦煌、新疆ウイグル自治区北部のトゥルファン、クチャなどの諸石窟が著名である。これら、インドから中国地域へ至る仏教東伝の経路上に位置する諸石窟に遺された仏教壁画は、仏教經典に叙述される仏教思想の表象化、またインド・中国と比較した際の中央アジア仏教の地域性・独自性を示す、貴重な美術資料といえる。
- (2) そこに表象される仏教思想は、それを製作した画家・工匠や、製作を主導したスポンサー、およびその周辺の仏教徒が有していたものである。ただし、壁画に込められた種々の仏教思想・信仰の要素が、製作時点より以降の仏教徒によりどのように受容されたか、という問題は、従来の仏教美術史研究では十分に検討されていない。
- (3) これに対し、研究代表者は、10～14 世紀のウイグル仏教徒が中央アジアとくに中国敦煌地域の諸仏教石窟に書き残した題記銘文資料の解読作業を進めてきた。その過程で、石窟の造営から数世紀を経たウイグル時代に属するこれらの資料が、石窟壁画に反映する仏教思想を理解するためのデータを提供する可能性に気づくに至った。

2. 研究の目的

- (1) 石窟造営時点の仏教信仰が数世紀後代のウイグル時代にまで、どのように受容・継承され（または変容を被り）、ウイグル仏教におけるトレンドを形成したかを解明し、中央アジア東部地域における仏教信仰の展開を通時的に捉え直すことを試みる。
- (2) 相互に独立して研究を発展させてきた古ウイグル語資料の文献学・歴史学的研究と、中央アジア仏教史・美術史的研究とを直接に架橋し、新たな方法論の開拓を試みる。

3. 研究の方法

- (1) 松井太（研究代表者）が、ウイグル人仏教徒の石窟参詣の背景となっていた仏教思想を、古ウイグル語題記銘文のテキストデータから把握する。
- (2) 菊地淑子（研究協力者、大妻女子大学）が、ウイグル語題記銘文が書き残されている石窟壁画に反映する仏教思想の諸要素を、仏教美術史的に検討する。
- (3) (1)(2)の作業のため、松井・菊地をそれぞれ敦煌莫高窟・安西榆林窟の現地調査に派遣し、それぞれのデータを収集する。また、坂尻彰宏（研究協力者、大阪大学）を敦煌石窟の調査に派遣し、帰義軍時代の石窟壁画に関する情報を収集して分析の参考とする。

4. 研究成果

- (1) 松井は、本科研およびこれに先行・連動する各種研究プロジェクトによる敦煌石窟のウイグル語仏教巡礼題記銘文の現地調査成果をまとめた「敦煌石窟ウイグル語・モンゴル語題記銘文集成」(『敦煌石窟多言語資料集成』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017, pp. 1-161) を刊行し、合計 283 条のウイグル語題記銘文の校訂テキスト・和訳・文献学的註解、さらには所在データや先行研究などの諸情報を提示した。これは総計約 800 窟におよび敦煌石窟のうち約 150 窟の調査成果に限られるものであるが、歴史再構成のための基礎作業となるものである。
- (2) (1)の校訂テキストに基づき、西暦 10～14 世紀のウイグル人仏教徒巡礼の諸側面を考察した。その結果、①敦煌・甘粛地域におけるウイグル仏教徒の巡礼の実態（巡礼期間や巡礼者の構成・宗教実践など）、②ウイグル仏教への中国民間信仰の浸透、③ウイグル仏教の僧職

制度に対するトカラ（クチャ）仏教の影響，などを解明した。これらの成果は，後掲の学術論文や国際学会での口頭報告として発表した。

- (3) 特に，敦煌・甘肅地域におけるモンゴル時代（13～14 世紀）のウイグル仏教徒の巡礼の実態解明の一環として，肅州（現在の酒泉市）から敦煌を訪れて3年以上滞在した事例を，敦煌莫高窟第 217 窟の題記銘文から剔出した。この莫高窟第 217 窟については，菊地が，造営の主体となった敦煌有力者をめぐる諸問題と，その造営年代に関する研究論文 2 本を発表した（菊地淑子「圍繞敦煌莫高窟第 217 窟的開鑿与重修之歴史」『形象史学』2018-2, 2018, 社会科学文献出版社, pp. 085-109; 菊地淑子「敦煌莫高窟第 217 窟供養人題記再論」南京大学中華文化研究院・中国天楹文化研究院（編）『絲路文化研究』第 4 輯, 商務印書館, 2019, pp. 61-81）。
- (4) ただし，当該窟をはじめ，敦煌石窟の仏教壁画に反映する思想・信仰がモンゴル時代のウイグル仏教に特徴的な「トレンド」と化したか，という問題については，十分に実証するためのデータを研究期間内に収集することはできなかった。これは，ウイグル語題記銘文自体がテキスト情報に乏しく，また中国外の研究者による敦煌石窟の調査にはさまざまな量的・時間的制限が設けられていることによる。今後も持続的に調査を継続して，本研究で収集したデータの分析を深めたい。
- (5) 中国・新疆ウイグル自治区トウルフアン地域の諸石窟遺跡に残る仏教壁画とウイグル語題記銘文も，敦煌地域のウイグル仏教巡礼との比較対象として重要である。それらの石窟の現地調査は諸般の事情から実施できなかったが，トウルフアン現地の研究者と連携して情報分析を進め，現存のチベット語高僧伝とは異なる内容の伝承を，敦煌・トウルフアン両地域のウイグル人仏教徒が共有していたことを解明した（陳玉珍・陳愛峰・松井太「大桃兒溝第 9 窟八十四大成就者圖像補考」『敦煌研究』近刊号，査読付）。この成果は，モンゴル帝室の尊崇を得たチベット仏教が，トウルフアンから甘肅河西にまたがり，ウイグル仏教徒に「トレンド」として浸透していたという松井の見解〔松井太「東西チャガタイ系諸王家とウイグル人チベット仏教徒」『内陸アジア史研究』23, 2008, pp. 25-48〕を補強するものである。
- (6) (5)と関連して，ロシア・エルミタージュ博物館に所蔵される旧ドイツ隊将来の石窟壁画断片資料の調査も予定していたが，新型コロナウイルス流行に伴う渡航制限により，調査を中止せざるを得なかった。
- (7) さらに関連する研究成果として，①西暦 10～11 世紀頃のウイグル仏教徒とマニ教徒との共存関係，②西暦 13～14 世紀におけるウイグル人キリスト教徒に対する仏教文化の影響，について検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 松井太	4. 巻 2018-2
2. 論文標題 榆林窟第16窟叙利亞字回鶻文景教徒題記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13584/j.cnki.issn1000-4106.2018.02.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 MATSUI Dai	4. 巻 -
2. 論文標題 Remarks on Buyan-Qaya: a Uighur Buddhist Pilgrim to Dunhuang	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Unter dem Bodhi-Baum: Festschrift für Klaus Rohrborn anlässlich des 80. Geburtstags	6. 最初と最後の頁 209-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松井太	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 高昌 寺遺址所出摩尼教・佛教寺院回鶻文帳歴研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山大學學報	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13471/j.cnki.jsysusse.2019.02.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-3
2. 論文標題 英國圖書館藏“蕃漢語詞對譯”殘片（Or.12380/3948）再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 敦煌研究	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13584/j.cnki.issn1000-4106.2017.03.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 -
2. 論文標題 敦煌石窟ウイグル語・モンゴル語題記銘文集成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 敦煌石窟多言語資料集成	6. 最初と最後の頁 1-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai MATSUI	4. 巻 -
2. 論文標題 An Old Uigur Account Book for Manichaeian and Buddhist Monasteries from Temple in Qoco	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Zur lichten Heimat: Studien zu Manichaismus, Iranistik und Zentralasienkunde im Gedenken an Werner Sundermann	6. 最初と最後の頁 409-420
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-1
2. 論文標題 吐魯番諸城古回鶻語稱謂	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 吐魯番學研究	6. 最初と最後の頁 95-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井太	4. 巻 2017-3
2. 論文標題 蒙古時代的畏兀兒農民與佛教教團	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西域研究	6. 最初と最後の頁 97-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16363 /j.cnki.xyyj.2017.03.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Dai MATSUI	4. 巻 -
2. 論文標題 Remarks on Buyan-Qaya, a Uigur Buddhist Pilgrim to Dunhuang	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Festschrift for Prof. Klaus Roehrborn dedicated on his 80th birthday	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白玉冬・松井太	4. 巻 31
2. 論文標題 フフホト白塔のウイグル語題記銘文	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 内陸アジア言語の研究	6. 最初と最後の頁 29-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松井太	4. 巻 -
2. 論文標題 蒙元時代回鶻佛教徒和景教徒的網絡	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 馬可・波羅 揚州 絲綢之路	6. 最初と最後の頁 283-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松井太	4. 巻 132
2. 論文標題 大英圖書館所藏對譯語彙集斷片 Or. 12380/3948 再考	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東方学	6. 最初と最後の頁 87-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 LI Gang & MATSUI Dai	4. 巻 4
2. 論文標題 An Old Uighur Receipt Document Newly Discovered in the Turfan Museum	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Written Monuments of the Orient	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 「幾龍治水」與古回鶻族中民間信仰
3. 学会等名 第六屆世界漢学大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 回鶻佛教の僧号“昆尼”與龜茲佛教・漢人佛教
3. 学会等名 絲綢之路民族語言研究工作坊 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 高昌回鶻王國佛僧の敦煌巡禮
3. 学会等名 絲綢之路民族語言研究工作坊 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Old Uigur Pilgrim Inscriptions at Dunhuang and Turfan
3. 学会等名 94. Collegium Turfanicum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 榆林窟第16窟叙利亞字回鶻文題記
3. 学会等名 2017敦煌論壇：交融与創新：紀念段文傑先生生誕100年國際學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井太
2. 発表標題 出土文書と石窟銘文からみたウイグル仏教巡礼
3. 学会等名 龍谷大学仏教学セミナー (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 MATSUI Dai
2. 発表標題 Religious Interactions among the Tur-kic Uigurs as Seen in the Dunhuang Wall Inscriptions
3. 学会等名 HeKKSaGON German-Japanese Conference: Working Group 3: Humanities and Social Sciences “Transcultural Encounters” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松井太・荒川慎太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 521
3. 書名 敦煌石窟多言語資料集成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://osaka-u.academia.edu/DaiMATSUI

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----